

人権同和教育調査研究委員会

一 テーマ

世の中にある、あらゆる差別を自分事として捉え、主体的に解決する意欲と実践力を養うために、人権同和教育をどのように進めていったらよいか。

二 テーマ設定の理由

子どもたちが、人権が尊重される社会づくりを自らの問題ととらえ、自ら考え行動していけるようになるために、人権同和教育を効果的に行いたい。それにはまず、学習教材を選定・開発する必要があると考える。

三 研究の経過

5月17日(月)	第1回委員会	年間計画・テーマ検討
10月11日(月)	第2回委員会	各自(校)の研究・実践の持ち寄り、研究
11月5日(金)	第3回委員会	丸子中央小学校授業公開・研究会
11月8日(木)	第4回委員会	丸子中学校授業公開・研究会
11月29日(木)	第5回委員会・総委員会	研究の反省とまとめ

四 研究の内容

- 1 児童・生徒が、自分自身や、身近な学級・学校や家庭・地域社会と結び付けて考えられるような課題設定のあり方について考える。
- 2 『あけぼの』改定(令和2年)を受けて、新たな人権課題や学習素材について、実践のための研究を行う。

五 研究のまとめと課題

- ・『あけぼの』の活用について改めて考え、実践し、その活用法や感想を出し合うことができた。特に中学校版『あけぼの』は今年度改定版「第六版」が発行され、ジェンダー問題、感染症による差別等新たな人権課題が盛り込まれ、歴史的認識による表現の見直しも行われており、多様性と人権尊重を基底においた学習を進めるために有用な教材であると確認した。
- ・地域素材を扱うには難しさもある。人権同和教育は小中で連携し、計画的に進めたい。これらの課題についても、『あけぼの』を活用することが解決の一つになると考えた。
- ・委員会で授業公開を行ったことも、大変勉強になった。丸子中央小2生M先生の授業では、子ども達の中で自己中心的な言動が見られることから、『あけぼの』低学年用「じぶんのこと すきだよ」を活用し、相手に自分の気持ちを伝えるにはどのような話し方がよいか、ロールプレイを中心に考えさせる授業を行った。言い方によって相手への気持ちの伝わり方が変わってくることを実感した子ども達が、自分本位の考え方から相手意識をもった考え方のよさに気づいていくきっかけとなった。丸子中学校1年生T先生の授業では、江戸時代に実際に起こった部落差別を扱った題材「やぶれたたいこ」を読み、差別のおこりとその不当性について学んだ。生徒達は、優れた技能と仕事への誇りをもった民衆が、厳しい差別を受けていた事実を知り、仲間と意見交換することを通して、差別の不当性や理不尽さを感じ取った。部落差別について学んだことにより、生徒達が部落差別に立ち向かうことはもとより、ジェンダー問題、コロナ差別等、生徒達の身近にある差別と結びつけて考え、差別をしない考え方や行動に繋がられることを願い、今後も学習を継続していきたい。